

## 第四節 大正初期の長崎医学専門学校

明治天皇の崩御によって、大正時代となったが、その初期には前時代のままの教育方針が守られていて、大正三年に勃発した第一次世界大戦は、世界の殆んど全部に影響を及ぼし、人類の幸福のために最も呪うべき事件となった。これによって、交戦各国は何れも多くの人命と財貨を失ったが、これが延いては第二次世界大戦をもたらし結果となり、わが国運の上にも大きな悲劇と障害とを来すこととなったのである。

第一次世界大戦においては第二次世界大戦と同様、戦争の災厄は交戦諸国に大きな犠牲を払わしめ、物資の欠乏、秩序の破壊、道徳の頹廃等、人類の幸福に反するものばかりであった。戦乱は社会組織上の種々の欠陥を暴露したのであるが、ここに全世界の思想界は極度の動搖を来したのである。わが国はヨーロッパの交戦国中に列してはいたが、戦場の中心から離れていたため、その惨

害は比較的少かったし、一時、交戦諸国からの商品が杜絶したため、東洋、南洋方面の貿易市場では頗る有利な地位に立ったのである。

戦争による思想界の動搖はわが国民性の長所、短所に反省を促す結果となった。将来の優勝民族たるべき教育の方針を思い、民本主義、労資問題等と教育の關係を考察し、その意見を發表するものが現われたのである。大正初期には人格的教育思想や公民教育思想が教育社会に注目され、種々の主義を標榜する人もなくなった。次に大正初期の本校の略史を眺めることにしよう。

大正元年九月、本校規則第一章第二条中、医学科学科目中、生理学の次に医化学を置き、医化学理論及び実習を生理学のうちより分離独立の科目とし、独逸語、生理学の毎週教授時数を増減し、医化学には同時数第一年に一時間・第二年に二時間半と定め、同薬学科学科目中、

#### 第四節 大正初期の長崎医学専門学校

各学年に涉り、独逸語の時間を増減した。

大正二年（一九一三年）の衛生行政は二月十一日、日本結核予防会が設立され、統計によっても、明治三十二年の肺結核死亡数全国調査当時と、この年の結核死亡数を見ると、倍に上っていて、死亡率も次第に上昇して来ていたのである。翌年三月三十日には肺結核療養所設置及び国庫補助に関する法律の公布があつたのもこの状態の打解策に外ならない。又、大正二年五月十四日には獣肉の食用適否の判定基準「屠畜検査心得」が制定され、九月十三日には医師試験規則を制定し、十九日には歯科医師試験規則及び薬剤師試験規則が制定された。

さて、本校では五月に本校規則第七章第二条の次に三ヶ条を挿入し、以下順次繰下げ、寄宿料一ヶ月金一円を徴収することとしたが、六月二十三日、庶政第七十二号を以て、直轄諸学校長職務規程が制定された。

##### 直轄諸学校長職務規程

- 第一条 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得
- 第二条 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲ

シテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第三条 左ノ事項ハ校長之ヲ専行スベシ  
但シ第六号及第八号ニ関シテハ処分後文部大臣ニ報告スベシ

- 第一 教官ノ学科担任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト
- 第二 規則施行上必要ナル細則ヲ設クルコト
- 第三 俸給月額ハ拾五円以下ノ雇員ノ進退ニ関スルコト
- 第四 教官以下ノ内国各地出張ニ関スルコト
- 第五 教官以下ノ除服出仕請暇ニ関スルコト
- 第六 講師ノ解雇及其ノ報酬減額ニ関スルコト
- 第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト
- 第八 三日以内ノ臨時休業ヲ為スコト
- 第四条 前項ニ掲ケタルモノノ外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スベシ

九月、本校規則第二章第三条第三項の次に天長節祝日十月三十一日の一項を加え、休業日とした。

十一月一日、市内袋町青年会館において、村上安藏教授在職二十五年記念祝賀会が開かれ、翌日、本校では祝賀陸上大運動会を催した。

十一月二十八日、新築中の長崎県病院精神病室の落成により診療を開始し、この日を創立記念日としたが、これは長崎における最初にして且つ最新の精神病室であつ

た（収容人員二十余名）。

大正三年（一九一四年）の衛生行政を眺めると、三月三十日、肺結核療養所設置及び国庫補助に関する法律の公布があり、三十一日、売薬法の公布を見、四月二日、医師法の第二次改正があつて、同年限りとされていた医術開業試験が延長された。同年八月二十二日、約一月前から勃発していた第一次世界大戦に参加してドイツに宣戦布告をなした後、同月二十七日、戦時中、医薬品を輸出しようとする者は内務大臣の許可を受くべきものと定められ、十月に入つて、大戦のため、医薬品の輸入が杜絶したので、衛生試験所に製薬部が置かれた。十月十四日、伝染病研究所が内務省より文部省に移管されたが、本校ではこの年、次のような発展への動きがみられた。

大正三年四月、東京における大正博覧会を機とし、日本医学会が開かれたが、この時、麹町区富士見楼で、在京本校同窓会が催され、京都帝国大学教授松下楨二博士を会長とする長崎医業奨学会が組織されたのである。これは前年八月十七日、東京芝浦生洲の東京同窓会で発議

され、菊地循一、尾崎市太郎、青木大勇等が田代正校長の上京を迎えて活動するところがあつた。

五月二十三日、日本皮膚科学会評議員及び日本花柳病予防会評議員青木大勇が本校教授に任ぜられ、着任すると、間もなく、長崎医学会を青年会館に開き、又、皮膚梅毒毒科を外科より分離して、九月一日より県病院で同科の診療を開始した。そして青木教授の主唱により従来、病院内で開かれていた紅楓会の組織を改め、長崎病院医事集談会を開くこととし、十一月五日より同会を開始した。

十月に入り、本校の解剖・衛生・細菌・病理の各教室及び本館の一部、並びに生徒控所が蟻害によって甚しい破損を受けていたので、復旧工事に着手した。この工事は一年半後、即ち大正五年三月三十一日に全部竣工した。十一月七日、青年会館において日支校友会が発会式を挙げたが、これは日支医薬学研究を目的としたものであつた。十一月十二日、研瑤会では医薬衛生法規講習会を開始し、講師として長崎県警察部長法学士斎藤守圀氏を

#### 第四節 大正初期の長崎医学専門学校

招いたのであった。

なお、この年より卒業試験の時期を改め、同時に又、卒業証書授与式を九月に挙行することとなった。

大正四年（一九一五年）三月、本校教授川添正道、磯部喜右衛門、青木大勇は長崎病院医事集談会を發起して、既に五回に及んだので、更に会告を發して學術研究の發展を期した。そして通俗學術講演会が各地で開かれるようになった。五月十五日には青年會館において従来の長崎病院集談会と長崎医学会とが合併し、組織を改めて、新しい会則を定めた。二十日後の六月五日にはその革新第一回を開いた。次に会則を示そう。

##### 長崎医学会規則

- 第一条 本会ハ長崎医学会ト称ス
  - 第二条 本会ハ医薬學ヲ研究シ其進歩普及ヲ以テ目的トス
  - 第三条 醫師又ハ薬剤師ニシテ本会ノ目的ヲ賛スル者ハ會員タルコトヲ得
  - 第四条 本会ハ毎月五日県立長崎病院ニ於テ開會シ學術上ノ演說講話及ヒ供覧ヲ行フ
- 但シ開會場所及ビ日時ノ變更ヲ要スル時ハ前以テ之ヲ通知ス

第五条 本會事務所ハ県立長崎病院内ニ置ク

第六条 入會セントスル者ハ住所姓名ヲ記シ事務所ヘ申込ムヘシ

第七条 退會セント欲スル者ハ書面ヲ以テ事務所ヘ届出ベシ

第八条 本会ニ會長一名 副會長一名 常務幹事一名 幹事若干名 書記一名ヲ置ク

第九条 會長ハ會務ヲ總理シ副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ代理ヲ為ス

第十条 常務幹事ハ庶務會計ヲ処理ス

第十一条 幹事ハ會務ニ参与ス

第十二条 書記ハ役員ノ命ニ依リ事務ニ從事シ有給トス

第十三条 會長ハ會員ノ投票又ハ推薦ニ依リ決ス副會長以下ハ會長之ヲ推薦ス

第十四条 役員ノ任期ハ満壹ケ年トス

但シ再選スルヲ得

第十五条 本会ノ會計年度ハ毎年五月ニ始リ翌年四月ニ終ル

第十六条 會費ハ一ケ年金五拾錢トシ十一月以後ノ入會者ハ金貳拾五錢トシ之ヲ前納セシム

會金ハ凡テ銀行ニ預入ス

第十七条 毎年五月ノ開會ニ於テ前年度庶務會計ノ報告及ビ役員ノ改選ヲ行フ

第十八条 規則ノ改正又ハ重要ナル事件ハ毎年五月ノ開會ニ於テ之ヲ議決ス若シ緊急ナル場合ハ役員會ニ於テ決定シ之

ヲ次回ノ開会ニ於テ報告ス

さて、六月九日、ロシアと因縁深い長崎では、世界戦争における同国の窮状を救うため、看護婦の一隊を送ることとしていたが、関東州都督府公医嬉野又三郎（明治二十五年本校卒）は大連駐在ロシア領事の勧誘により、露国創病兵救護団を組織した。その定員は団長一名、医員二名、薬剤師一名、通訳一名、助手二名、看護婦長四名、看護婦十六名の予定とし、長崎において募集することとなり、勤務は戦争終結までとし、すべてロシア政府の費用負担として、ロシア軍人軍属と同様の待遇を受けることとなった。前年、ロシアはドイツ・オーストリア両軍と開戦後間もない八月下旬、タンネンベルヒで大敗し、海軍の善戦はあったが、この年の夏以後、総退却を続けていたのである。

一方、世界大戦に伴う医薬品の欠乏は漸次その対策を練られていたが、政府は六月十九日に染料、医薬品製造奨励法を制定し、十年間補助することとしたので、わが国の医薬品業界の育成は漸くその緒についた。

## 第八章 長崎医学専門学校

六月三十日、政府は、看護婦規則を制定し、七月十四日には東北帝国大学に医科大学を設置して仙台医学専門学校を包括したが、この設置はやがて大学令の公布の気運を萌していたものである。又、八月二十八日、私立看護婦学校養成所指定規程が制定され、このところ、看護婦養成機関の整備が急がれていた。

本校では六月、学年を変更し、開始期九月を四月に、修了期八月を三月に改め、随って入学試験期及び入学期を改正し、現在生徒の経過規程を定めた。

十月二十一日には大正天皇の御真影を下賜され、同月二十五日、奉戴式を行った。

同年十二月十日、文部大臣高田早苗は大正天皇御即位の大礼後、宮中に召されて次の御沙汰を受けた。

皇考夙ニ心ヲ教育ノ事ニ勞セラレ制ヲ定メ令ヲ布キ又勅シテ其ノ大綱ヲ昭ニシタマヘリ

朕遺緒ヲ紹述シテ倍々其振古ヲ図ラムトス今ヤ人文日進ノ時ニ方リ教育ノ任ニ在ルモノ克ク朕カ意ヲ体シ以テ皇考ノ彝訓ヲ対揚セムコトヲ期セヨ

その後、大規模な事件が相次いで起り、多事多難な国

#### 第四節 大正初期の長崎医学専門学校

運は、表面上安定を保ち乍ら躍進をしたかのような状態を続けた。大正三年に起った第一次歐洲大戰は日英同盟の誼により交戦国の列に加わる結果となり、前記のように日本の貿易上の立場は頗る有利な地位を占め、且つ外来文化の思想は全く斥くべからざる状態に陥った。即ち國際聯盟の結成と共に軍備縮少の要求が起り、明治時代後半を風靡した軍国主義帝國主義的思想は漸く影を潜め、民主主義思想が高潮期に達したのである。

この両者の相剋は各界に及んだが、大正十二年十一月十日、国民精神作興に関する詔書が渙発され、以後、昭和初頭の混乱期を迎えるのである。

この間、文部省は訓令を発するところがあった。即ち大正三年八月、対独宣戦直後、訓令第八号が発せられ、戦後、大正八年七月、訓令第六号及び同年八月、第七・八号が発せられて、教育の大方針が戦争によって影響を及ぼされることを防ごうとした。

さて、前年の改正に伴い、大正五年（一九一六年）一月には学年、卒業試験期、進級規程、授業料納期等変更

に関する規程の改正があり、以後、五月に卒業式を行うようになった。そして、同月十四日には先の教育御沙汰書奉読式を挙行した。文部大臣高田早苗は学事視察に全國諸校を視察したが、大正五年五月十日、高田文部大臣はその途次、長崎医学専門学校に臨校した。

この年の衛生行政としては三月十一日の癩予防に関する件（明治四十年三月十九日公布）の一部改正、療養所長に入所患者に対する懲戒検査権を与えた。四月一日、伝染病研究所を東京帝國大学に附置し、六月十四日には学校衛生官が置かれた。又、同月二十七日、保健衛生調査会官制の公布があり、七月十日に簡易生命保険法の制定、八月一日に飢乏労災扶助規則が公布されるなど、相次いで社会保障制度が確立した。九月二十二日、医師及び歯科医師試験官制を公布された。十一月十一日、文部省に学校衛生会が設置され、同月、大日本医師会が結成され、益々学校衛生、医師試験制度の充実と医師会の発展を示している。